

第5回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 議事概要

日 時： 令和3年7月12日（月） 午後2時00分～4時30分（非公開部含む）

場 所： 古町ルフル12階 集会室2

出席者： 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会

小池由香委員、佐藤由香子委員、佐野可寸志委員、鈴木孝男委員、
田村圭子委員、富山栄子委員、樋口秀委員長、柳沢厚委員

欠席者： オブザーバー 上村康司（新潟県土木部都市局都市政策課長）

1 開会

2 挨拶

3 議事（意見交換）

（1）第1～4章（素案）

（事務局） 資料説明

（樋口委員長） これまでの皆様からいただいた第4回までの意見も踏まえた更新内容についての説明があり、参考資料2が提示されている。まず、資料1と参考資料2について、ご質問・ご意見をいただければと思う。

（樋口委員長） 国内外とつながる、外につながる意見を入れていただいた。柳沢委員、いかがですか。

（柳沢委員） よくなったと思う。

（樋口委員長） どこまで市が単独でできるのか懸念はあるが、常にそういう意識をもたれた方がよい。産業育成という意味では、国外を目指した方がよいと思うので、非常に適切な判断だと思う。

（樋口委員長） スマート都市とかデジタル化というお話もあるが、富山委員、いかがですか。

（富山委員） 修正されていて、とてもよくなっている。

（佐藤委員） 改めて北区や東区の内容を見ていたら、新潟はそれぞれいいまちだと思った。自分だったらどこに住みたいかという気持ちで見ている。北区に住んでいる人、東区に住んでいる人が、改めて自分の住んでいるまちがこんないいまちだと認識できる。案が固まったら、それぞれの区に小冊子のようなかたちで置いたら、すごくうれしいと思う。

（樋口委員長） 田村委員、防災面でたくさん書いていただいたが、足りない部分はない

か。

(田村委員) 最初には全然無かったところについて、章立てしてうまく書いていただいている。ただ、1点気になるのが、水害は書いてあり、地震と津波も書いてあるが、外水（氾濫）のイメージしかない。たぶん、街中は内水（氾濫）の方が多い。下水道等の排水能力を超える豪雨が降れば、溢れてくることが多い。それをどこかで想定して、都市計画において内水をどう考えるか、何か一言を書くとよい。火災等については言及がある。

防災とも関係があるが、参考資料1に記載の「めざす都市の姿のイメージ」について、新潟市で閉じているが、この絵で本当にいいのか。周りにも市町村があるので、県内を意識した絵がよい。新潟市は新潟県の中心のまちとしての役割を果たしていかないといけないので、どこかにそれが伝わる要素が入るとありがたい。広域連携で周りからも助けてもらわなければいけないので、ぜひお願いしたい。

自分の専門とは直接関係ないが、ICTの記述について、Society 5.0について書いてある。参考資料2の11ページには、Society 5.0で、今後のことが描いてあり、サイバーとフィジカルとある。サイバーと言われたときに、私も含めて取り残される人が多発すると思う。いずれサイバーを目指しつつ、デジタルとリアルの合間に挟むようなところがあって、そこから段階的に変えていかないと現実的には難しいと思う。

(樋口委員長) 言葉についてご意見をいただいたので、ご検討いただきたい。小池委員、いかがですか。子育てや福祉について、修正部分もあまりなかったかもしれないが、全体を含めて何かご感想は。

(小池委員) 「共生」という言葉を入れてくださいとお願いして、入れていただいてよかった。今回の水害の被害を見ていると、災害弱者の方々がかっちり避難できるようなハード面の体制が改めて大事になってきている。全体を通じて、それを入れていただいて非常によかったと思う。

(鈴木委員) 農業と食産業のところ、参考資料2の43ページ目の取り組み方針4-1-3について、農業・食産業の成長産業化は、どんどん推進していただきたい。特に、特区をいただいている政令指定都市なので、もっと強力に進めていただきたい。

もう1つは、全体を通じて、古いものに対して未来に残していこうというメッセージが強い計画になっていると思う。伝統農業であったり、小規模な農業、食産業ビジネスに関して、地域資源の要素として非常に重要。そういったものをどうやって継続、継承していくかが、新しい取り組みと両輪であった方がいいと思う。そこには世代交代が必要。後継者不足と所得の面が課題になっている。移住等の施策や交流とも連携して、しっかり残していくことをメッセージとして盛り込んでもいいと思う。そこが田園集落づくり制度などと連動してくると、とても魅力的になるという印象を

持った。

環境について、「低炭素」より今は「脱炭素」という言葉を使うようになってきている。環境に配慮しながらも、すごく道路整備が強調されている点が、どっちつかずでメッセージの弱さを感じる。これからは、環境配慮型の取り組みがかなり強くなってくると思うので、もう少し強調されるといいと思う。区の方針も、道路整備がどうしても強くなってきていて、そこのミスマッチが起きないように整合性を図る必要性があると感じた。

(樋口委員長) 脱炭素型まちづくりの推進については、参考資料2の22ページの取り組み方針1-2-1に書いてある。私は、富山市のSDGsの委員会に参画させていただいている。富山市は、日本で一番DIDの人口密度が低くて、車社会がまん延していて、道路整備に舵を切っていた。しかし、北陸新幹線が来ることに合わせてコンパクトシティに大きく舵を切って、今ではSDGsでも先端を走っていると言われている。たった10年しか経っていない。だとすると、新潟はこれから先どうするかというとき、もう少し前を向いていい気がする。今、にいがた2kmという骨格をつくらうとしているので、そこに脱炭素を徹底的に落とし込むとか。それを応援するようなかたちで、これから直近で動くまちづくりみたいにして、この都市マスが外側を埋めていくかたちになるのではないかと思う。

目指す都市の姿で、「田園に包まれた多核連携型都市-新潟らしいコンパクトなまちづくり-」が今までのテーマ。これから先は、私たちが今検討している都市マスを現す目指す都市の姿とキーワードを皆さんと一緒に議論できればと思う。最終的に決めていただくのは事務局でよいと思うが、このような案があるのではないか、ということをお願いして、8人いるので8つの案が出てくるような気がする。議論を進めながら、参考資料1の右上の第3章、「目指す都市の姿 田園に包まれた多核連携型都市-新潟らしいコンパクトなまちづくり-」について、このような文言がよいという案を、後ほど議論いただければと思う。

(富山委員) 目指す都市の姿について、先ほど脱炭素のお話があったが、例えば川崎市では、プラスチックから水素を作って徹底的に環境都市を目指していて、SDGsの先進的な取り組みをしている。新潟については、「田園に包まれた」とあり、実際はそうであるし、10年後もそうなのかもしれないが、「新潟らしいコンパクトなまちづくり」の「新潟らしい」というのがよく分からない。いろいろなところと協働してまちづくりを進めることを総合的に考えると、思いつきで申し訳ないが「持続可能なネットワーク型都市」はどうか。「持続可能な」というのは、脱炭素も入っていて、田園もこのままいい方向に進めていくという意味がある。ネットワーク型は、官民で連携してまちづくりを行っていくというような意味。

(2) 第5～6章(素案)

(事務局) 資料説明

(樋口委員長) 先ほどのキーワードの部分について、区別構想の案を見たときに、個別に方針1～8まであり、1つの方向性を示すという意味で非常に重要ではないかと思う。最初のメインテーマも含めて、皆様と議論できたらと思う。事務局から話があった通り、資料2について、実践に向けて、皆様からアドバイスをいただきたいということなので、ご意見をいただけたらと思う。第5章の区別構想について、ご感想いかがでしょうか。

(柳沢委員) 資料2と3を比べると、資料3の方は、非常に狙いがはっきりしていて分かりやすい。資料2は、読み込みをあまりしていないせいなのか、勘どころがつかめないというのが率直な印象。どういう制約条件の中で、どういう選択をしたのかがほとんど分からないのに、答えだけが出てきているので、いいのか悪いのかがつかめない。もし可能であれば、現在の計画はこうなっていて、それに対して、全体構想の中からの要請でこういうことを受け止めなければいけないと、どのような地元からのリクエストがあって、それを踏まえるとうなるという構造を説明してほしい。そうでないと、区内でも、いいとか悪いとかにはならない気がする。

(樋口委員長) 整理はどのようにされているのか、手順のようなところの説明をお願いしたい。

(事務局) 策定の経過として、区の自治協議会にご意見をいただきながら議論してきた。昨年度の夏頃に同時期にスタートし、全体構想も横目で見ながら各区の方で議論してきた。その中でも、都市マスの策定検討委員会の中では、全市的なデータをお示ししたが、各区で議論する段階においては、区別構想でも表示しているとおり、区ごとの人口や世帯数の推移等を示しながら、区の強みは何かという議論をした中で、このようなかたちになっている。

(樋口委員長) 区別構想について、区づくりの方向性の目標期間は、都市マス全体と全く一緒ということでよいか。

(事務局) 区別構想については、全体の都市マスの中で、区としてこのような方向性で進んでいくことを、具体的に区ごとに記載した。目標年次や計画期間については、都市マス全体と同様となる。

(樋口委員長) これまでと継続するものと、新しく追記されたものがあるように思う。それが全部一緒になっているので、何が追加されたのか、何がなくなったのか、何が継続しているのか、どこまでできてこれから先はどれを重点的に行うのかなど、全部が分からなくなっている。柳沢委員の意見にもつながるように思うが、どうなのか。この後も各区で議論することになるのか。

(事務局) 区自治協議会の皆さんとは議論していて、自分たちの区ではどのようにまちづくりを進めていくかについては、各区の中でもある程度認識を持っている。基本的には、都市マスに区別構想があって、その後に区独自の区

ビジョンまちづくり計画ができ、毎年、どのように取り組んでいくかの議論が積み重なっている。各区の中では、整理されている中で作っているが、ご指摘の通り、これまでとこれからが分かりにくい。その部分については、現段階では整理していない。

(柳沢委員) 地元で議論を積み上げてきているので、我々はあまり議論しにくい。そうすると、全体構想の考え方はここに反映されて、このように着地していると説明していただいたほうがよい。老婆心みたいな指摘になるが、庁内に説明するときも、そういうことを言って、なぜこうなったのか、誰もが腑に落ちる状態になるように説明した方がよいと思う。

(事務局) 記載している部分で、10年、20年後を見据えて書いていない部分も中にはある。直近ですぐ終わってしまいそうな部分や、すごく遠い将来の課題になっている記載もある。そこは、ご指摘も踏まえて整理した上で、今後活用していきたい。

(鈴木委員) 区別構想と前の構想について、現行計画と照らし合わせるとそんなに変わっていない。キャッチコピーも含めて、図になるとほぼ変わっていない。そういう点で、これからの変化というところで、今回の全体計画の全市レベルの方針との整合をしっかりとっていただきたい。その中でも、少し発展性を感じたのは、東区の真ん中の拠点。特に、コンパクトシティや環境配慮型ということで、メリハリをつくるのもよいと思う。ただ、その中身が全然分からない。期待も含めて、できるかどうか分からないが、地域拠点、生活拠点、機能別拠点、田園集落の4つぐらいは具体的な方針を持って、個性的なまちづくりを進めていく上でも、もう少し強調して分かりやすく表現していただきたい。その他には、集客性が高い施設に対して、どのように低炭素・脱炭素のアプローチをしていくか。そのようなことも今回はかなり重要だと思う。その辺は、区ごとでしっかり議論して、どのように対応していくかを明確な方針として区別構想に出していただきたい。地域拠点、生活拠点、機能別拠点、田園集落をどのように具体的なイメージを持っているのか、その実現に向けてどのようにアプローチしていくかについては、第6章「実現に向けた取り組み」のところで、区ごとのアプローチの仕方にも出てくると思うので、もう少し具体的な表現をしていただきたい。そうでないと、前の構想、現行計画との違いを明確に表すことができないと思う。

(佐野委員) 資料2の後半では、まちづくりの将来像がどの区も一緒。違うとすれば、港湾と空港があるとか、大学があるとかだけ。その下は、それほど特徴を活かしたまちづくりになっていない。違うように見えるけど、基本的には固有名詞とネットワークの何号線の違いが多くて、目指すところの違いは少し見えづらい。

(田村委員) 資料2は各区の思いでまとめられていたので、これ自体をどうすると言うより、まとめ版をつくったらよいと思う。また、構想図の中の地域拠点、生活拠点、機能別拠点の色合いがかなり見にくいので、何とかならないか。これは、そのまちについて、まとめの数行で枠の中にあるまちづくりの将来像のキャッチコピーの説明をして、概要のようなものをつくるのがよいのでは。それをやると、それぞれの個性が出たり、これはできないと思うものが見えたりする。南区の構想図は、シンプルであるが、これはこれですごく個性が出ている。たとえシンプルであっても、これしかないというものが表現できていれば、それでよいと思う。ただ、資料2の24ページにある「大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた」というところは、ある程度説明する必要がある。このシンプルな地図だけでは、見ても何も分からない。それを汲んで、都市マスの中で何を実現して、一緒に協働していくのかは、また別物だと思う。

(樋口委員長) 目指すまちづくりの将来像には、このキャッチコピーができた理由や目指すべき方向性が書けるかもしれない。

(佐藤委員) それぞれ個性ある8つの区だと思うが、資料2の項目が全部一緒。区の概要とか、現状と課題とか、全部統一した同じ中でそれぞれ書かれている。現状と課題に、それぞれの区の掘り下げた特徴を書くと魅力が増すと思う。例えば、江南区の横越だと、トウモロコシがすごくおいしい。その地域の特産物をもっと活かして、皆さんに提供していきたい。それぞれの区に対して、調べた内容を書いた方がもっと魅力的になると思う。

(樋口委員長) 固有名詞がもう少し中に入るとよい。「くろさき茶豆大橋」のような名前が付いたものもある。にいがた2km等も皆さんに呼んでもらって、愛着を持ってもらうような都市マスもいいと思う。

(樋口委員長) 参考資料1にある第4章の方針1~8の文言を議論しているが、改めて見返すと、第4章の地域づくりの方針1~8、区づくりの方向性の①~⑥とある。①は、方針1と方針6を目指している等、区づくりの方向性に対して、SDGsのようなかたちで、全市の方向性を当てはめることはできるのか。

(事務局) 両方、並行的に動いていた部分があるので見ながらやっているが、区別構想は実践版のような計画があり、関連部分をどう書くかは非常に悩ましい。ただし、区より身近なところになったときにはリアル感が入った方がいい等、いろんな工夫の仕方はあると思う。示し方は少し検討させていただきたい。ビジュアルは、まだイメージとなっている。

(小池委員) 今年度の初めに、地域福祉計画を各区でつくられている。区ごとに生活場面から基本理念を全部出している。都市マスで各区のまちづくりの将来像というのがあって、ハード面が整っていく中で、人々の生活が成立していくと思うので、整合性がどの程度とれているのかが気になる。例えば、

東区では、都市マスのまちづくりの将来像で「豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、笑顔と元気があふれる空港と港があるまち」とあり、その下の項目に「多様な世代が暮らしやすいまちづくり」となっている。一方で、東区の地域福祉計画の基本理念としては、「地域の人々のふれあいや支えあいのなかで、みんなの顔が見え元気で安心して暮らせるまち」というのがあり、これはどうリンクしているのか。私たちの生活はハードとソフトの両面から成立するので、ハード面がこのように整うことで、私たちの生活は成立しているということが見えるといいと思う。

(樋口委員長) まちづくりはハードが先行してしまうところがあるが、両方がないといけない。

(樋口委員長) 全区を見ていただいたが、それを全部合わせるとオール新潟になる。目指す都市の姿について、富山委員から「持続可能なネットワーク型都市」というキーワードをいただいた。皆様、ご披露いただいてよろしいですか。

(柳沢委員) 現在は、「新潟らしいコンパクトなまちづくり」になっている。「新潟らしいコンパクト」ではどこの都市でも通用してしまうので、「新潟らしい」の中身をつかみ出して書けるかどうか。それを考えると、田園が新潟の大きな資産であるとか、海を大きく抱えているとか、自然的なことにおいてすごく特別な位置にあることと、世界とつながっている大きな都市ということ。この2点で新潟らしさを表現できないかと思う。個人的には、ボディコンシャスという言葉があるように、「環境にコンシャス」とか「デザインにコンシャス」等をうまく盛り込めるといいと思う。

(田村委員) 「多核展開型ネットワーク」と書いて、そこから広げてより具体的に「まち・田園・水湊(ミナト)が詰まったまち」とか、「連携したまち」とか、「都市、田園、水湊機能が詰まったまち」とか、はいかがか。また「2kmプロジェクト」というのは、コンパクトをさらにギュッとしたまちのコアなイメージがよく伝わる。まち・田園・水湊(ミナト)とすれば、地域の広がりがイメージできる。

(小池委員) どうしてもソフト面の話が多くなってしまうが、ハード面が整わないと、ソフト面が成立しないところがある。それを踏まえて、キーワードになるのは、孤立や孤独をどうしていくか。それは人口減少など、全部につながってくると思う。それを解決していくような「つながり」や「ネットワーク」は、孤立や孤独を防いでいくときに大事なキーワードになってくると思う。人のつながりが見えるようなハード面のキーワードが入っているとよいと思う。

(佐野委員) コンパクトという点は、核をコンパクトにするということで、新潟をコ

コンパクトにするという話ではない。また、コンパクトは少し前から良く使われている言葉なので、皆さんがおっしゃったキーワードを前面に出して、コンパクトはあえて使わなくてもよいと思う。

(鈴木委員) 現行計画の「新潟らしい」というのは、コンパクトにかかっているのか、まちづくりにかかっているのか。

(事務局) 「コンパクトなまちづくり」ということで、全体にかかっている。

(鈴木委員) 「新潟らしい」というところは、水や緑との接点や田園であることを考える。私が新潟に来て感じたのは、町の中であまり緑を感じないこと。新潟駅の周辺でも緑を感じないし、水も感じない。生活していても歩いて行ける範囲に広い公園がなく、緑の多い緑地があるわけでもない。街中では、もう少し緑と水との接点を強調して、生活と密接につながるところが「新潟らしい」につながるとよい。周辺の郊外の住宅では、まさに田園空間の中での美しい街並みになると思う。それと、せっかくの開港都市で、その歴史は古町辺りを歩くと感じるのも、あそこに元気になってもらいたい。そこを集中的にやってもらって、周辺とのネットワークをつくってもらうことを次の計画では期待している。

(樋口委員長) たくさんキーワードが出てきた。皆様に言っていただいたのを組み合わせ、もう少し議論を進めるのか、もう決めてしまうのか。

(事務局) もう2回委員会があるので、別にここで決める必要はないが、この部分は悩ましいところがある。基本的には、現行の都市マスの考え方を継承しながらになるが、見たときの分かりやすさとか、初めての方や若い方が見て、なんとなくイメージができるものになる工夫はしていけないといけな

(樋口委員長) 一歩前に出るような言葉がないか考えてみた。「田園と拠点」が響き合う多核連携型都市」はどうか。「田園に包まれた」でもよいが、守りのような感じがするので、攻めるようなキーワードを1つ入るといいと思う。「共鳴」や「共生」など、区別構想が実現するものや各区が役割分担できるようなキャッチフレーズがあって、各区が一丸となるようなものがよいと思う。ラグビー2019年の「ONE TEAM (ワンチーム)」などは、とても熱くなった。あのような言葉で、1つになって「にいがた2km」を応援しつつ、各区がそれぞれ1つのまちづくりに向かっていくという前向きな言葉がここに出てくると、若い人たちも「都市マスはカッコいいな」と思ってもらえるような気がする。

(富山委員) 「田園に包まれた多核連携型都市」だと何を指しているのか、何のために多核連携型都市なのかが分かりにくいと思う。なので、「持続可能な」を入れると、環境にしても産業にしても人口にしても、それが目的だと分かると思うので、「持続可能な〇〇」を入れるのはどうか。そして、やは

り新潟の魅力は住んでいると思うが、「水」と「港」であり、これは外せないと思う。

(樋口委員長) まとめていただいたものをご検討いただきたい。
資料 3、第 6 章「実現に向けた取り組み」について、皆様からご意見をいただきたい。

(富山委員) マネジメントの PDCA サイクルの適用のところについて、PDCA サイクルはいいと思うが、あるべき姿が何で、そこからバックキャストで何をしなくてはいけないのか。PDCA というかたちで、バックキャストの記述も入れるとよいと思う。ただ単に PDCA を回しているばかりだと、過去の延長線から未来につながっていけない点がある。PDCA と合わせて、バックキャストで何をしなくてはいけないのか、あるべき姿から何をしなくてはいけないのかという記述も入れるとよい。

(樋口委員長) PDCA を回すだけが目的になることがある。

(柳沢委員) 第 6 章「実現に向けた取り組み」の 3 つの制度について、前から気になっているが、1 番目の地区環境保全・再生まちづくり制度は、焦点が結べていない。また、何を言っているのかよく分からないところがあって、もう少し工夫できないのかというのが率直な意見。

2 番目の郊外土地利用の調整制度について、これは分かりやすい話だが、適否判断の考え方が一番のミソだと思う。この後、非公開の会議をするので、そちらの方で議論した方がよいかもしいない。①～⑤まであって、かなり分析的に細かく分けているが、ここはあまり細かくしない方がいいと思う。簡単に言うと、必要性和妥当性と確実性、この 3 つで全部整理できるので、できるだけ大きく整理して、具体的なことは例示的に書いておいて、現場で応用動作ができるようにしないといけない。書き切ってしまうと、非常に動きが悪くなるという気がする。

3 番目の田園集落づくり制度についても分かりやすい話ではあるが、地区計画が出てくる。どこでも地区計画をつくれればいいというわけではないと思うので、どういう場所が地区計画をつくる必要があるのか。地区計画をつくるときの基礎的な要件のようなものを書く必要がある。

(樋口委員長) 他都市では調整区域の地区計画をつくれれば何でもできるというかたちで、どんどん開発が広がってしまうこともあったので、ご検討の際はご注意ください。

(佐野委員) 郊外土地利用の調整制度の進め方は、柳沢委員の意見のようにやればよいと思うが、この問題点は必要性和貢献度でかなりかぶっていること。こういうものは、エクスクルーシブ（排他的）なものがあった方がいいと思う。もしやるのなら、もう少し考えた方がいいと思う。

1 つ質問で、例えば、貢献度が低い開発は許可されないものなのか。その意図がよく分からないが、貢献度が低いだけで、法律で許可しないことができるのか。

(事務局) 開発許可は、基本的に市街化区域に入っているのであれば、貢献度のあ
るなしは判断基準にはならない。「郊外土地利用の調整制度」は、一般的
にいうと、市街化区域を拡大してまで何かをするときのもの。

(樋口委員長) 立地適正化計画でも、市街化区域（居住誘導区域）から外しておいたと
しても、開発許可が止められないという難しいところがある。

(田村委員) 都市計画が専門でないのであまり理解ができないのは、資料 3 の 2 ペー
ジについて、7つの丸枠が3つの制度になっているが、この7つの丸枠と3
つの制度の関係性がよく分からない。もちろん、全部の制度ができるわけ
ではないことは理解しているが、何かしらの説明がないといけない。既存
の制度を並べて整理されていると思うが、3つの制度の名前は、これで決
まっているのか。

(樋口委員長) 既存の制度を並べて精査して、厳格に運用していこうとしている。

(田村委員) 資料 3 の 4 ページ目の①～⑤で「防災対策」が仲間はずれになる。これ
については、新潟市の会議に出ていると思うが、防災は「刺身のつま」の
ように使われている。実質、防災対策は新潟市のどこもやっていることな
ので、これは何をもって「防災対策」と言っているのか分からない。ハザ
ードマップの浸水地域や土砂災害警戒区域になったら、新たなまちの発展
を諦めるのかどうか、それを議論するのかどうか。安全性について、防災
対策をやっているから安全だと同値に読み替えることはできない。せめて
書かないとかはどうか。でも、書かないと安全性を確保できないので、ど
うするのが課題となる。

資料 3 の 5 ページは、説明も分かりやすく、イメージもしやすい。3 ペ
ージの地区環境保全・再生まちづくり制度については、理解できないので、
少なくとも書き方は修正しないといけないと思う。他に比べると、具体性
がない。

(3) その他

(事務局) 今回のいただいた意見を踏まえて、次回 8 月 30 日に第 6 回策定委員会
を予定している。内容は、パブリックコメントに向けた議論となる。

----- 以降、非公開 -----

【配布資料】

第5回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 次第
第5回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 出席者名簿
第5回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 配席図

資 料 1 第4回委員会を受けての主な更新箇所
資 料 2 第5章 区別構想【素案】
資 料 3 第6章 実現に向けた取り組み【素案】
参考資料1 都市計画基本方針（全体構成）【素案】
参考資料2 第1～4章 【素案】
参考資料3 第6章 実現に向けた取り組みイメージ